

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 216 号

2019年7月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：原谷 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—7月7日（日）会員12名が参加し、草刈り（観察路の周辺）、水車の解体（側板および腕木を解体し、一部焼却しました）、ため池の除草（ウチワゼニクサ）の作業を実施しました。また作業実施前に、原田会長より水車の再建案について説明がありました。

—7月13日（土）天気は小雨から本降りになりましたが、親子自然観察隊には昔ながらの手押し除草器を使ってたんぼの除草作業に参加してもらいました。会員は駐車場の草刈りと水車の解体を行いました。雨のため、少し早めに終えましたが、観察隊には感謝です。参加は、観察隊32名（親14名、子18名）と会員11名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—7月27日（土）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

—8月 3日（土）親子自然観察隊（水棲動物観察・須賀河内川）

—8月17日（土）維持活動（草刈り、虫取り）

—8月24日（土）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「生態系の異常」（原田満洲夫 記）

厚東川木田橋から毎朝眺める。動的にはカワウが1羽水中にもぐったり浮かんだり。静的には大サギが1羽流の隅でじっと水面を狙っている。4～5年前ぐらいにはカワウが何十羽と群れて鶺鴒のごとく小魚を追っていたが、とみに最近この光景が。見当たらなくなった。

何度となく厚東川の水棲状況をこの「会員の声」でお伝えしたことが有るが、残念でならない。一向に復興の兆しが見られない。ホタルの幼虫の餌となるカワニナの数も全く少なくなっている。生態系の異常と云える。

二俣瀬の夏祭りのなかで子どもたちに鯉の放流を企画している。もちろんビオトープに関係している我は、このあたりの鯉は外来種で放流すべきではない旨強く強調するも残念ながら聞き入れず、イベントが優先された。放流後、錦鯉や黄・白の目立つ幼魚はすぐさま鶺鴒やサギの餌食になる。それでも地域活性化が優先しこれを行わなければならない。皮肉にも川鶺鴒と大サギの活性化が行われる。

二俣瀬の活性化にビオトープでのイベントとタイアップした良いアイデアは無いだろうか？

5. 親子自然観察隊 「 稲作体験：雑草の除草作業 」 (菅 哲郎 記)

観察隊の有志 11 家族が集まり、水田の除草作業と、イネの根に空気の送り込み作業、タニシなどの除去作業を行いました。水田の除草作業は手押し式除草機を使用しました。

手押し除草機の取り扱いが低学年にはむづかしいので、主に 6 年生、5 年生を中心に 4 年生も加えかわるがわる交代で除草作業を行いました。幸いにも雑草は少なく、作業ははかどりましたが、途中より雨が降り始め、全員雨に濡れながらの作業となりました。しかし、みんなの熱心な働きで、思ったより早く作業は終了しました。

手押し除草機の作業は、最初は慣れなかったのもうまく取り扱いきななかったのですが、すぐに要領を覚え、すいすいと作業を行えたようです。しかし、全員泥だらけ！よく頑張ってくれました。根気よく頑張ってくれた上級生の隊員たちに、ご苦労様と申し上げます。

その後も雨は止まず作業を終えた後より益々激しく雨は降り始めました。早く作業が終わったおかげで、ずぶぬれにならず、本日の作業を早めに終了することができました。お天気が良ければ、草刈り後の刈草をかたづけの予定でしたが、草刈り隊も雨のため作業ができず、作業が中止となり、全員今日の作業をこれで中止いたしました。

臨時の作業にもかかわらず、11 家族も参加していただき、大変ありがたく思っています。泥んこになり、はだしでの田んぼの作業は大変だったと思いますが、お米作りにはこのような大変な作業が行われるわけで、お米作りも大変な努力が必要なことが子供たちにもわかっていただけたと思っています。

農家の若い後継ぎがいなくなっています、やはりこのような大変さを感じ、お勤めを選んでゆくのでしょう。それ以前の問題として、子供たちに稲作の大変さを体験できたらと考え、また、水の中にはいろんな生き物が暮らしていることを知っていただきたく、臨時に企画してみました。

それぞれのご家庭におかれましても大変ご多忙な折、この様な臨時企画に参加していただきありがとうございます。しかし、この様な機会はなかなか経験できません。人様の田んぼをお借りしては絶対にできません、私たちが育て管理しているからこそできる企画です。幸いにも 7 月は親子自然観察隊の行事はお休みしており、参加できる隊員だけで十分だったこともあり、あえて企画いたしました。思った以上の参加隊員が参加され、有難うございました。



手押し除草機で雑草の除去を行う高学年の隊員たち、早々に取り扱いをマスターした。

親子自然観察隊の感想

★三谷悠斗

田んぼの管理を初めてして、楽しかったです。

★三谷晴子（母）

初めて見る道具に驚き、またまた勉強になりました。稲もすくすく育っていて感動しました！ありがとうございました。

★有吉遼

田にはいつ除草機をおすと、「う、重い」と思いました。でも、しばらくやっていると、こつがつかめてきて、土をしっかり混ぜることができるようになりました。美味しいお米ができるのが楽しみです。

★新谷（母）

こんにちは(^)先日はお世話になりました。雨は降っていましたが、とても楽しい会でした。子供たちもとても楽しかったと言っています。ヤマカガシの赤ちゃんを見れた事が嬉しかったと言っています。あまり普段見かけない生き物を沢山見つけて勉強にもなりました。5年生のお兄ちゃんは田んぼのお手入れの大変さがわかったと言っていました。これからも参加するのが楽しみです(^)。

★溝邊寛人

田んぼに機械を通すのは足がとられて難しかったけど、楽しかった。
たくさんの生物に触れ合えてよかった。

★溝邊義人

田植えに行けなかったから、田んぼのお手伝いできて楽しかった。

★溝邊(母)

田植えも田んぼに機械を通す体験も昔ながらの方法で里山を体験できていつも楽しいです。
ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

(41) ニッポンハナダカバチ *Bembix niponica* (細腰亜目有剣類 ドロバチモドキ科)

体長 20～23mm, 割と大型のハチです。北海道から九州まで日本全土に分布します。乾いた砂地を好み海浜、河川敷、公園の砂場、お墓の通路などでよく見られます。花の蜜を食べますが、子育てには昆虫のアブやハエを狩り、餌として与えます。砂質の土中に巣穴を作りますが、外出するときには入り口を砂で埋めてしまいます。ハナダカバチの目は淡い緑色の透明で美しくとても特徴的です。狩バチに分類されますので、人を襲うことはなく近寄っても安全です。お尻の針はもっぱら獲物を狩るときに使われるようです。

筆者は海水浴場の砂場で見つけ驚きました、身近にこんな大きくて美しいハチがいろいろとは思いませんでした。前足で入り口を掘る姿は見ているとも見飽きません。



巣穴の前で ニッポンハナダカバチ



巣穴を掘り返す ニッポンハナダカバチ

引用・参考文献

- 田仲義弘、2012. 狩蜂生態図鑑. 192pp. (株) 全国農村教育協会. 東京.
藤丸篤夫、2014. ハチハンドブック. 104pp. (株) 文一総合出版. 東京.

7. 会よりの連絡事項

- 1) 水車は修理することで進んでいますが、水車修復経緯について連絡します。
 - ・会員による一部解体にて修復費の節減を図っている（6/22、7/7、7/13）
主軸部のハブを除いて腕木・バケット・円周側板を解体済。
 - ・主軸部の軸補修は善和産業と厚東商会の2社にて見積金額提出済 価格と技術力の査収中
 - ・木製部（バケット・腕木・円周側板）の製作組立見積は守生工務店提出済・綿部会長紹介
見積は今月末になる予定 ※いずれも提出金額は7月末に公表します。更に協議します。
 - ・皆様のおかげで予算内（支援金と寄付金）で修復が行われると思われます。あとは支援金
拠出条件にあうイベントを今年度プレ・来年度本番の創設20周年記念を行うのみです。

8. 編集後記（松本 フデ子 記）

今年は例年になく多くの蕾と清楚な白い花を咲かせている夏椿。別名沙羅の木。花言葉は、愛らしさ、はかない美しさ、哀愁だそう。朝に開花し夕方には散ってしまう一日花である事に由来する為なのかと。何故か毎年とても気になる夏椿である。ビオトープのシンボルである水車を再び回す計画が動き出した。長く止まっていた水車。予算、業者の見積り等話し合う中、自力で何が出来るかの話から実行に移ると現状の図面が引かれ解体が始まった。あっと言う間に折れた軸と中心部だけに。このまま自力で修理、再建できるのではないかとさえ思われる。みんなの知識、技術、巧みの集団ではないか。ビオトープを造り始めた頃にも感じたけれど今又みんなの智恵の輪に感心させられる。